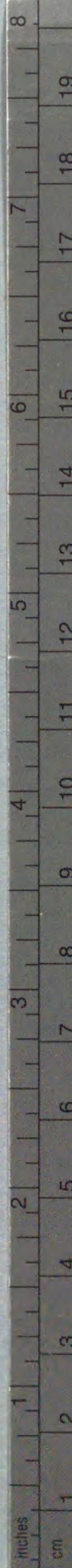


ギゾー氏著
永峰秀樹譯

歐羅巴文明史

十二

和第五百八拾九號

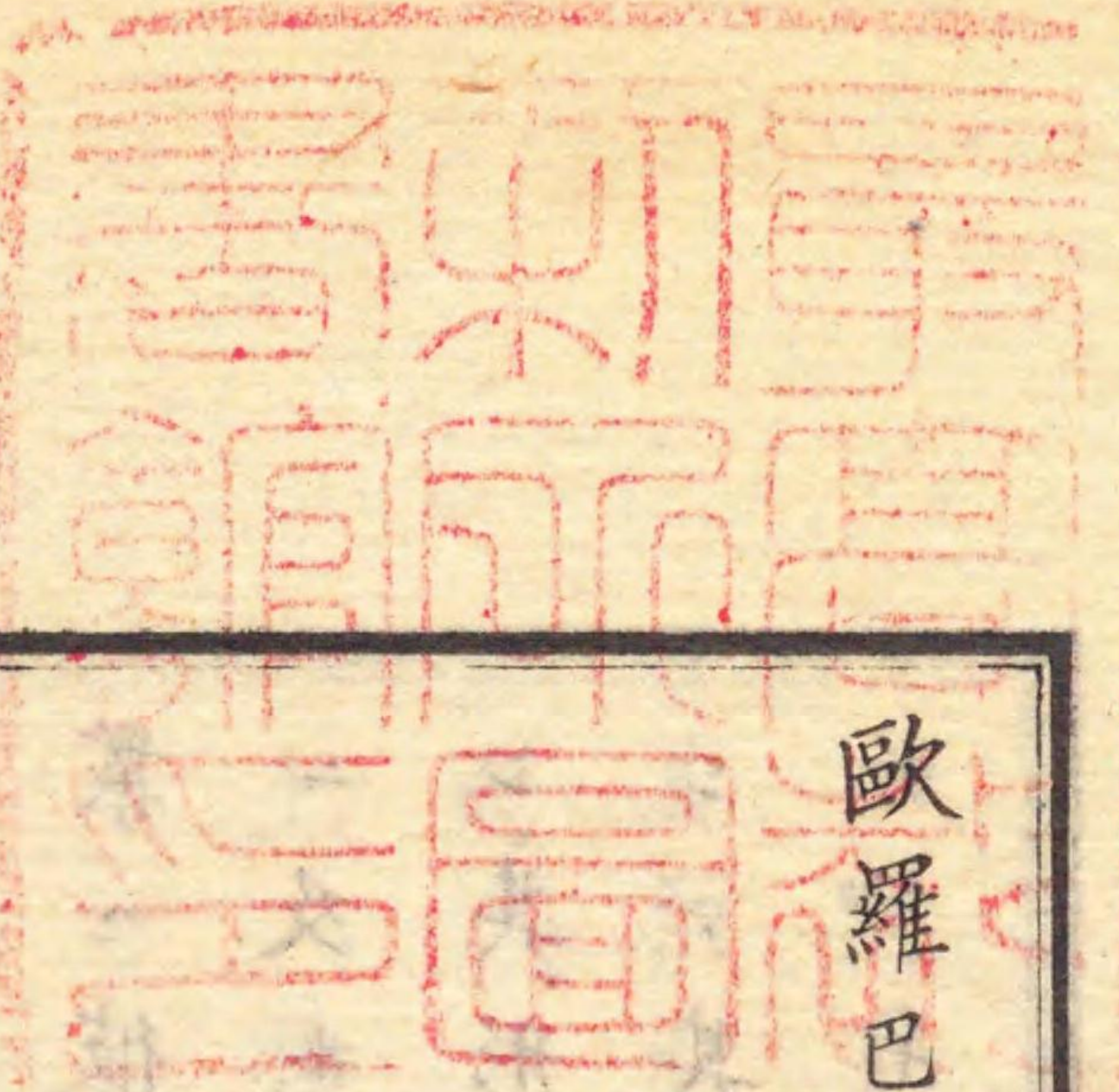


Kodak Color Control Patches



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



最高裁判所圖書印

歐羅巴文明史卷之十二

教門改革

余前諸編ニ於テハ屢歐洲社會ノ混沌紊亂セル
又慨シ又各元質ノ區々分離セルヲ以テ全社會
ノ真狀ヲ講說スルニ難キヲ憂ヒ又卿等ヲシテ
黽勉堅忍以テ外國風改良シ秩序整理シ人々ノ志
望一處ニ歸シ共ニ公利ヲ圖ルノ時代ニ至ルヲ



再譯



G 21786
 38.10.22
 管理換
 國立中央圖書館

東京帝國大學
 圖書館

最高裁判所圖書印

歐羅巴文明史卷之十二

教門改革

佛國
 米國
 日本
 永峰秀樹

再譯

原著
 所本

余前諸編ニ於テハ屢歐洲社會ノ混沌紊亂セル
 又慨シ又各元質ノ區々分離セルヲ以テ全社會
 ノ真狀ヲ講說スルニ難キヲ憂ヒ又卿等ヲシテ
 黽勉堅忍以テ外國風改良シ秩序整理シ人々ノ志
 望一處ニ歸シ共ニ公利ヲ圖ルヲ時代ニ至ルヲ



待タシメタリ然ルニ此編ノ講説スル時代ハ漸ク正ニ其時代ニ達スルヲ得初メテ世情紊乱ノ憂ヲ除クヲ得タリ然ルニ一難漸ク去レハ又一個異類ノ難事爰ニ生シ来レリ是ヨリ先キ歐洲ノ狀ハ前諸編ニ示シタルカ如ク此地ノ事業ハ彼地ノ事業ニ關係ナク彼地ノ變動ハ此地ニ及ホサス一地方ニ限界アリ其出所ヲ異ニシ其形情ヲ別ニシ之ヲ一社會ノ名ノ下ニ記載シテ其相類似スル所ヲ解説セント欲シテ能ハサリキ然ルニ述古ニ至リテハ其事情一變シ来

リ國家ノ衆元質衆事蹟ハ相互ニ一進一退シテ其原形ヲ改革シ人民ト人民トノ交際政府ト人民トノ交際邦國ト邦國トノ交際及ヒ人々思想上ノ諸感動等ニ至ルマテ均シク廣大衆多トナリタリ往時即前諸編ニ講過セル時代ニハ世間ノ諸事物互ニ關涉ナク一事物ノ興廢ノ他事物上ニ感動ヲ起サ、ル者衆多ナリキ然ルニ此ヨリ以後ニ至リテハ世間萬千ノ事物ノ區々ニ隔離シテ成立スル者ナク互ニ相進退シ互ニ相抵觸摩軋シテ各事物盡ク其原形ヲ變シ次第ニ相

改訂 卷之十二

近似合同スルニ至レリ卿等試ニ思察セヨ斯
ク世事多端ニシテ一定歸着ナキ中ニ於テ近似
合同ノ真處ヲ認メ又斯ク廣大錯綜セル事變ノ
歸向スル方角ヲ探リ各種ノ元質ノ鏗鑄親和シ
テ成レル所ノ諸事業ノ綱領ヲ舉ケ然ル後ニ以
上千百事物ノ永年間に起リタル者ノ歸合セル
一大事蹟ノ全社會ニ廣敷セル者ヲ指示セント
スルカ如キハ其難事タルヤ遙カニ前諸編ニ於
テ各事物各元質ヲ講シタル者ニ超絶スルニア
ラスヤ然レ凡之レ實ニ歷史上ノ一紀元ト謂ス

ハク其真性ノ外發シタル者ニシテ又其文明史
上ニ奏功セル部分ノ真效驗タルヲ以テ余レ敢
テ精神ヲ鼓舞シテ以テ茲一大難事ニ着手セン
トス其實ニ大難事タルハ下條將サニ講説セン
トスル條件中ニ於テ直チニ覺悟スル所アラシ
假令其本性ハ教門ニ非ストスルモ其起目スル
所ハ教門ニ外ナラサルノ一事件ノ一千百年代
ニ發スルアリ此事件ヲ十字軍ト云フ其事タル
ヤ重大ニシテ其年ヲ經ル久シク又之ニ依テ隨
發シタル事物ハ多變ナリシト雖凡其大狀ヲ察

シ之カ為ニ感動スル所ノ事物ヲ酌量スルカ如キハ頗ル精細ニシテ誤失ナカラント欲スルニ當リテ吾人ノ困難ハ本編ノ如ク重大ナラザリキ

本編ノ講スル所ハ千五百年代ノ教門ノ變乱ニ在リ世ニ之ヲ「フオルノーシヨ」ト稱ス本編ニ用フル「フオルノーシヨ」ノ義ハ單ニ教門改革トナシテ見ントヲ要ス今教門改革ノ如キ大事件ノ本質ヲ發見シ又曰テ以テ發現スル所ノ本性ヲ講シ效驗ヲ説クニ於テ其脉絡ヲ貫徹セ

シメント欲ス是レ豈ニ大難事ニアラスヤ

教門改革ヲ查察スルノ時限ハ千五百年代ノ始ヨリ千六百五十年頃マテニ在リ蓋シ此時限ハ正ニ教門改革終身ノ傳記ヲ全ク包藏スレハナリ凡テ史事ノ興起スルヤ之ニ因テ生スルノ感動ハ將來永遠ニ及ホシ滅期ナカルハク又其因テ以テ生スルヤ必ス其本原ヲ前代ニ採リ其種ヲ後代ニ敷ク然ルニタトヒ其脉絡ハ自カラ前

後永遠ニ通スルアルモ其興廢存亡ハ必ス某年月ヲ以テ之ヲ記スハク又其同道路中ニ於テ一

個ノ新事業起ルアレハ其道ヲ之ニ譲リ漸々視
聽ノ外ニ去ルヲ以テ吾人一事ヲ取リテ某年ニ
起リ某年ニ終ルト云フモ亦妨ケナシ故ニ吾レ
教門改革ハ千五百年代ノ始メニ起リ千六百年
代ノ中頃ニ終ルト云フ卿等幸ニ誤認スルナカ
レ
教門改革ノ紀元ヲ精示スルカ如キハ敢テ緊要
ナラス只千五百二十年「ウキソテンボルグ」
府令普魯ニ於テ「マルチン、リユーゼル」
士ニ屬スニ於テ「マルチン、リユーゼル」
人カ法王「レ」十世ヨリ下セル罪狀書ヲ公衆ノ
有名ノ大

目前ニ燒棄テ自今以後羅馬教會ヲ離レテ獨立
スヘキナリト公布シタル時ヲ以テ此改革ノ紀
元トシテ可ナリ此時ヨリ「ウエストファリア」
ノ決シタル千六百四十八年迄ヲ以テ教門改革
ノ首尾ト看做スヘキナリ如何トナレハ當時
百ニハ教門改革ノ始首ニシテ又最モ其大事ト
十年ハ教門改革ノ始首ニシテ又最モ其大事ト
スル所ハ大牙交錯スル歐洲諸國ヲ分ツテ加特
力國、^{プロテスタント}彭力單國ノ二黨トナシ以テ相抗敵セシム
ルノ一大事變ノ起レル時代ナレハナリ而教黨
間互ヒニ勝敗アリ千五百年代ノ始ヨリ千六百

五十年頃マテ凡ソ百五十年間争戦止時ナカリ
シカレ千六百四十八年ニ至リ初メテウエスト
ニアリテノ條約ニテ加特力、彪力單、兩教党ノ諸國
和平ヲ講シ教門ノ異同ニ関セス互ヒニ親睦平
和ニ生活センコトヲ約シタリ自是シテ後ハ教門
ノ異同ヲ以テ國ニ黨ヲ分チテ交結同盟ノ主本
トスルノ事止タリ是ヨリ先キ歐洲諸國ノ交結
同盟セシ者ハ或ハ加特力盟ト云ヒ或ハ彪力單
交ト称シ異教ノ兩党相交盟セシ者ナカリシカ
レウエストニアノ講和以後ハ再ヒ是等ノ區

別アルナク其交結同盟スルモノハ全ク其本ヲ
教門ト異ニセル所ニ歸セリ故ニ仮令教門改革
ノ效驗勢力ハ尔後日月ニ盛昌ヲ致スト雖レ教
門改革ノ偏重即チ教門改革ノ進動ハ爰ニ至リ
テ終期ニ達セリト云フテ可ナリ
今下條將ニ教門改革ノ經歷シタル名標事蹟ノ
ミヲ略説シテ以テ其進動セル道筋ヲ示サント
ス、タトヒ斯ク揭示シタル者ハ改革ノ綱領ノミ
ニシテ甚簡略ナル者ナレバ尚ホ卿等ヲシテ斯
ク多變綜錯シタルノ事物ヲ取り首尾相貫ケル

一事業トシテ合論シ以テ千五百年代教門改革ノ眞質ハ何物ニシテ又其文明史中ニ何等ノ功績アリシヤヲ講説スルノ困難ナルヲ了解セシムルニ足ラン
教門改革ノ發セル時ハ恰モ政事上ニ著名ノ一事件起リタル時ニ際セリ當時實ニ彼ノ歐洲著名ノ二君「フランシス」佛王ト「チャールス」五世日耳曼帝ニシテ奥西トノ間ニ罅隙ヲ生シ其始メハ伊太利國ヲ相争ソヒ次ニハ日耳曼帝國ヲ相争ソヒ後ニハ歐洲ノ重權ヲ握ラント相争ソヒタル時

代ナリ又奥土利家ノ權勢旺盛トナリ終ニ歐洲ノ首國トナリタルモ亦此時ナリ又是ヨリ先キ英國ハ歐洲大地ノ政事上ニ関涉スルヲ著シカラサリシカモ當時ノ國王「ヘンリ」八世ノ力ニ因リ英國ノ大地ノ政事上ニ関涉スルヲ更ニ甚ク廣大確定ノ事トナリタルモ亦此時ニ創マレリ
千五百年代佛國ノ内事ニ関スル事蹟ヲ見ルニ只彪力プロテスタント加特力カトリックノ二教徒間ノ争戦アルノミ此争戦ノ由来ハ其曾テ失ナフタル政權ヲ回復シ

以テ國王ヲ制抑セントスル所ノ國中ノ大貴族ノ計謀ニ出テ教門ヲ以テ其器械トナシタルナリ是レ實ニ佛國教戰ノ政事上ニ関スル所ノ者ニシテガイスタロア二族ノ或ハ同盟或ハ爭戰セル所以ノ本ナリ此爭戰ハハ^ハ四世ノ即位十五年ハニ因テ終レリ^ハ西班牙ニテハ合衆聯邦^{和蘭ヲ云フ當時和蘭ハ}ノ乱^フリツプニ世ノ中年ニ起リ一方ニハ異端^イ考察党ハアルヴァ侯ヲ首トシ一方ニハ教政兩事ノ自由ヲ得ントプリンセスオヴヲレンジヲ首

長トシテ聯邦中ニ爭戰永ク續キ荷蘭ニテハ堅耐ト智略トヲ以テ遂ニ自由ヲ確定シ得タリシカ^カ氏西班牙ニテハ自由党敗^ハニ教政兩事ノ專制^ハ壓抑至ラサル所ナカリシ英國ノ狀ノ記スヘキ者ハメリ^リ「イリザベツ」共ニ^ニ二代^ガメリ^リハ加特カ教ヲ奉シ「イリ」女^ニ王^ノイリザベツ^スハ^ハ彭力單党ヲ奉ス^ス件^ハ「イリザベツ」^スノ^ハ彭力單党ノ首長トシテ西國王「^フ井リツ」^プニ世ニ敵シタル事^ハ「^シエーム」^スチ^エ「^フアルト」^ム即^シ「^シエーム」^ノ即位及ヒ國王人民ノ間ニ大爭論ヲ生シタル等ノ事件ナリ

當時北方ニ新強國勃興セリ乃チ千五百二十三
 年ニ瑞典ハ「ゴスタヴァス」ガ「アサ王」ノ建國ニ関
 リ普魯西ハ「チエート」ニツク隊此隊ハ半武半教
 貴族ヲ以テ編ミノ還俗シタルニ因リテ起レリ
 タル隊ナリキ是ヨリ先キ北方ノ邦國ハ歐洲ノ政權上ニ関涉
 セル者ナカリシガ此時ヨリシテ後歐洲ノ政權
 上ニ関涉スルコトナリ後年三十年戰日耳曼著
 ニ於テ其重要者タルヲ發露シタリ
 當時佛ノ國事ノ更ニ記スヘキ者ハ「ルト」井「ス」十
 三世ノ代ニシテ「カル」ガナル、リ「チエール」カ内政

ヲ變革シタル事、日耳曼トノ関涉、及日耳曼ノ彪
 カ單宗徒ヲ扶援セシ等ノ事ナリ、又日耳曼ニテ、
 ハ千五百年代ノ季年ニ當リ土耳其トノ爭戰、千
 六百年代ノ始メニ歐洲東方近古ノ大事タル三
 十年戰、又日耳曼人ノ常ニ誇耀スル著名ノ人々
 ニハ「ゴスタヴァス」アドルブス「ウアル」レンステ
 「ル」チルリ「ラ」ランヌウ井「ツク」侯及ヒ「ウエー」マ
 「ル」侯ノ現ハレタル事等ナリ

續テ佛國ニハ「ルト」井「ス」十四世即位シ「フロ」ン「ド」
 党「ル」井「ス」十四世王幼時ニ當リ佛國ニ起リタ
 ル政事党ニシテ政府ニ敵シ百官ト爭ヌタル

西國史略 卷之十二
英吉利史 查理一世

モノ初期タリ又英國ニハ彼ノ「チャールズ一世」
廢位ノ大叛乱ダレト、レベルリヨント稱スル
者發現セリ
右歴史中最モ重大ナル事件ノ當時ニ起リタル
者ヲ略擧スル是ノ如シ是等數事ノ情狀ハ各人
盡ク熟知スル所ナルヘケレハ敢テ多言ヲ贅ス
ルコトヲ要セサルナリ以テ見ルヘシ當時實ニ史
中ノ大事輻湊シ其事ノ多端ニシテ且ツ重要ナ
ルヲ吾人更ラニ當時一等ノ重要ヲ讓レル事件
ヲ商量センニ亦均シク其多端ナルヲ見ン當時

ハ實ニ各國政法ノ大變革ヲ起セルニ著名ナル
時限ニシテ諸大國ハ大抵君主獨裁ノ王權政体
專ハラ行ハレタリ中ニ獨リ和蘭ハ強盛ナル合
衆聯邦ヲ構成シ英國ハ君民同治^{コンスタブルモナルキ}ノ政体殆ント
其功ヲ遂ケタリ今政事上ノ談ヲ止メ端ヲ更メ
テ聖會ヲ講センニ當時聖會ニテハ古風ノ僧徒
殆ント其權ヲ失ヒ新様ノ僧徒代リテ其位ヲ領
シ其形狀性質古僧ト異ニ其權勢更ニ古僧ニ加
フルアルヲ稱セリ是ノ新僧徒ハ果メ何者ナラ
ンカ乃チ「ジエス」ト派是ナリ
支那日本ニ來リ
西教ヲ弘メント

西國史略 卷之十二 十

羅馬法王國
羅馬法王國
羅馬法王國
羅馬法王國
羅馬法王國

シタルハ恐クハ
エス
大會ヲ以テ「コンスタン」
ニ出ノ剩餘ヲモ勤盡シ教事ニ関スル者ハ盡ク
羅馬法王朝ニ順從ナラサルヘカラサルノ權力
ヲ固定シタリ今聖會ノ談ヲ止メ當時自由思想
ノ進動タル理學上ニ展眸スルニ近古理學ノ大
改革者タル「バーコン」デスカルト「スナル」二人並
立シ互ニ相頷頷セルヲ覽タリ又當時英佛二國
ハ文學未タ幼穉ナルノ時ニ際シテ伊太利ノ文
學ハ光輝赫灼トシテ獨リ其場ヲ壇ニセリ當時

ハ又歐洲殖民法ノ初メテ立チ殖民地ノ大ナル
者若干ヲ設置シ貿易ニ勤勞シ危險ヲ侵シテ新
地ノ發明ヲ努力セシ等大事業ノ發動ハ前代之
ニ比類スヘキモノナシ
斯ク政事教門理學文學等ノ各項下ニ於テ當時
ノ事情ヲ觀ルニ一トシテ前代ヨリモ其事重大
ナラサルハナク又多端ナラサルハナシ是レ正
ニ人々ノ交際、人民政府ノ交際、邦國ノ交際、又人
々心力ノ交際等ノ万事ニ於テ人心ノ活潑銳利
八面ニ外發シタル者ナリ之ヲ概言スレハ當時

ハ實ニ大人大事ノ世代ト稱スハキナリ斯ク當時ノ人類事物共ニ甚々重大ナル者ノ夥キ中ニ就テ最モ重大ナル者ハ本編正ニ吾人ノ思察セントスル所ノ教門改革是ナリ教門改革ハ實ニ當時事蹟ノ大本首長タリ是レ即チ教門改革ノ名稱ヲ以テ當時ニ付スル所以ナリ教門改革ハ實ニ當時ノ全体ヲ察知スヘキノ一事ナリ諸大事ノ諸大効驗ヲ呈セル中ニ在ツテ教門改革ハ其最大者ナリ諸大事ハ為ス所ハ盡ク教門改革ノ為メニセサル者ナク教門改革ハ諸大事ヲ

調理シ又諸大事ノ為ニ調理サレタリ教門改革ノ關係スル所是ノ如ク夫レ重大ナル是ヲ以テ吾人ノ將サニ努力推究セントスル所ハ精密ニ教門改革ヲ覆考シ以テ諸大事ノ根幹トナリ又諸大事上ニ大感動ヲ有テル教門改革ノ由来スル所ヲ查察セントスル所ニ至リテ其性質是ノ如ク大ニシテ又其相関渉スル所モ亦是ノ如ク廣キ諸大事ヲ令シ史中一個ノ大事トシテ講スルカ如キハ其難易ノ度若干ナラシコト然ク其事タルヤ極メ

國史記
卷之十一
十一

テ難キ是ノ如クナルモ此業ハ成全セシムルハ
ル可ラス凡ノ世事一回完了シ史中ノ一事トナ
レハ即チ一要事ヲ生ス其要事トハ其事物ノ本
未ヲ探リ其諸原因諸効驗ヲ連絡シ之ヲ一個有
頭有足ノ事トシテ論セサル能ハス蓋シ是レ又
各人ノ最モ希望スル所ナレハナリ教門改革ノ
一事ハ實ニ史事ノ永世不朽ナルモノニシテ後
世ニ在テ今古ノ事脈ヲ知ラント欲スル者ハ盡
ク學ハサル可ラサル者ナリ真正ノ結果ヲ求メ
ンカ為メ今ノ學ンテ古ニ及ホシ末ヲ探リテ源

ニ溯ホラント欲スルハ真ニ是レ志士學者ノ最
モ熱腸ヲ以テ從事スル所ニシテ又聰明ヲ用フ
ル極メテ高尚ナル所ナリ然レモ斯ク小時間ヲ
以テハ其詳ナルヲ講スル能ハス故ニ今卿等ニ
其梗概ヲ示シテ止マシム
一時代ニモセヨ一事業ニモセヨ其大性ヲ察シ
其成績ヲ探ラント欲スルニ當リテ特ニ其一端
或ハ其少時ヲ取リテ直チニ其真處ヲ求得ント
欲スル者ハ誤レルノ甚キ者ナリ凡ノ人ノ思想
力ハ猶ホ人ノ嗜慾ノ如ク唯疾速ニ其希望ヲ遂

區羅巴如明也
卷之十一
三

ケント欲シ其行路ニ妨碍ノ横ハルアルヲ見テ
ハ多時ヲ費ヤシ一タニ之ヲ清掃シテ其行程ヲ
平坦ニスルヲ煩勞トナシテ之ヲ忍フ能ハス其
心目ノ注ク所ハ唯偏ハニ其結果ニノミ在ルカ
故ニ妨碍物ニ逢フアルモ之ヲ度外ニ措キ一躍
シテ其好菓ヲ摘マント欲スル者ナリ然ルニ其
妨碍物ハ度外ニ放棄シタルカ為メニ其行路ヲ
妨碍スルノ度毫モ減スルヲナク安泰ニ其間ニ
生息シ後日ニ至リ其妨碍著明ニシテ之ヲ如何
ンルスルヲ能ハサルニ至リ始メテ當初其妨碍

物ヲ排除セサリシヲ悔フレ既ニ其詮ナキニ
至ルヲ常トス是ノ危害ヲ避ルニ一法アリ其法
タルヤ堅心重思ヲ以テ其事業ノ全体ヲ解剖シ
テ其組織ヲ精覈ニシ始メテ其歸着結果ノ如何
ンヲ思察シテ以テ其事蹟ニ一定ノ確論ヲ付ス
ヘキナリ思想カト事蹟トノ關係ハ猶ホ道德學
ト情慾トノ關係ニ於ケルカ如シ故ニ凡ソ人情
慾ノ道ヲ得ント欲セハ必ス先ツ道德ノ學ニ其
規則ヲ取ランコトヲ要シ思想カノ誤ナカランコ
トヲ欲セハ必ス先ツ事蹟ニ精熟センコトヲ要ス特

ニ其事蹟ニ精シキノミニテハ未可ナリ必ス事蹟ノ輕重ヲ權ラシムルヲ要ス既ニ其事蹟ニ精熟シ又其輕重ヲ權リ得タル後四方八面ニ思察ノ基本トナルハキ者ヲ涉獵シテ殘ス所ナク之ヲ心中ニ儲蓄シタル後ニ於テ初メテ其羽翼ヲ廣張シ漸ク高天ニ翔リ其眼界ヲ廣メテ其大勢真蹟ヲ查察スレハ則チ其事蹟ノ起伏陰顯ノ状ヲ見ルハ歷々之ヲ掌上ニ觀ルカ如ケン然ルニ若シ其心思初ニ先ツ下地ノ位置状情ヲ知悉セスシテ俄然猥リニ高天ニ翔颺セハ忽チ甚シキ誤

謬ニ會シ終ニ下墜スルノ禍アラシム夫ハ歴史ヲ推究ハ猶ホ數字ヲ以テ計算スルカ如シ其初メニ毫釐ヲ誤ラハ其終リヤ千萬ヲ誤ルニ至ラン史ヲ論スルモ亦然リ若シ初メニ諸事蹟ノ關係セル所ノ者ヲ一々ニ精察セス直頭ヨリ急遽ニ其大勢全蹟ヲ穿鑿セントセハ忽チ側路ニ迷ヒ入り其正路ヲ距ルノ速迫ハ夙カニ吾人思察ノ外ニ出ツヘキナラン以上講說セシ所ヲ以テ先ツ卿等ノ儆戒スヘキ條々ヲ示シ兼テ吾カ講說ニ過誤アラシム卿等

ラシテ自カラ吾カ過誤ヲ察知セシムルノ方法
ヲ明シタリ上條ニ講説セシ所ハ今ヲ知り古ヲ
學フノ方法ヲ示シ且ツ吾人未タ緊密ニ合察セ
サリシ諸事蹟ノ大狀ヲ示シタル外ニ論及スル
所少ナリキ然ルニ今既ニ查察ノ事更ニ難ク又
訛誤ニ陥井ラントスルノ歧路更ニ多キノ事物
ヲ講示スヘキノ時代ニ達シタルヲ以テ預メ卿
等ノ為メニ注意ヲ要スヘキ條件ヲ示シ吾カ測
度ノ過誤アル所ハ曩ニ示シタルノ方法ニ從ヒ
卿等自ラ之ヲ發覺スヘキノ法ヲ示シ又既ニ卿

等ノ心思カ常ニ迷ヒ易キノ邪路ニモ警戒ヲ加
ヘ卒レリ故ニ下條又前諸編ニ諸事ヲ查察シ来
レルノ法ニ曰リテ教門改革ヲ查察セン其之ヲ
查察スルヤ專ハラ其事ニ関スル大事大性ヲ撰
ミテ之ヲ説キ瑣末ノ小事ニ及ホサス以テ其歐
洲文明ノ進歩上ニ作為セル所ノ有様ヲ示サン
トス
卿等定メテ千四百年代ノ季ニ於テ歐洲ノ大狀
ノ如何ンヲ記得セルナラン再ヒ之ヲ畧擧スレ
ハ教長大會及ヒ「ホ」ハ「ミヤ」國「ハ」ツ「ス」党ノ教法改

蔽ス、ノ、專賣ヲ獨リ、トミニカシ宗徒ニ許シタ
ルヲ以テ「ア」ガスタシ「ン」宗徒ハ嫉妬ヲ懷ケリ彼
ノ教門改革ノ首唱者タル「リ」ユゼル「モ」亦「ア」ガ
スタシ「ン」徒ノ一タルヲ以テ終ニ嫉妬心ヨリシテ
改革ヲ企テタルモノナリト論シ又其一人ハ諸
ノ國君ハ教門ト權衡ヲ相爭ソヒ又貴族ハ聖會
ノ富厚ヲ羨ミ之ヲ奪掠セントスルノ貪婪心ヨ
リ比周シテ此改革ヲ起シタルヲ主張シタリ仇
讎者ノ論ハ教門改革ヲ以テ人心人事ノ毒惡ヨ
リ發シ私心私慾ヨリ起リタル者ト認タル者是

ノ如シニ、
然ルニ改革党若クハ之ニ左祖スル論者ハ教門
改革ハ眞誠ニ聖會ノ弊害ヲ改良セントスルノ
ミニシテ敢テ法王朝若クハ羅馬教ヲ廢滅セン
トセル者ニハ非ストナシ其干戈ヲ起シタルハ
自保ノ為メ已ヲ得サルノ策ニ出テ以テ古時ノ
如キ純清不濁ノ聖會ヲ復興セントスルノ眞意
ヲ以テ之ヲ舉行セリ故ニ其舉行セル事一モ教
義ノ弊害ヲ醫治スルニ非サル者ナキヲ抗論ス
然ルニ余今平心之ヲ裁斷スルニ兩党ノ論スル

區羅巴文
明史
卷之二十二

所盡ク其當ヲ失ヘリ然レモ兩党ノ中ニテ孰レ
カ正ニ近キヤト商量スルニ改革党ノ論スル所
ハ較真ニ近キ所アリ其原因ヲ取ル較大ニ此事
件ノ廣大重要ナルニ適應スルハ前論者ニ優レ
リ然レモ尚ホホク其真點ニ論及セル者ト云フ
ヲ得可ラサルナリ余カ見ル所ヲ以テスレハ教
門改革ハ偶發ノ事ニ非ス私利私慾ヨリ發スル
者ニモアラヌ又天慈天真ノ結果タル教弊改革
ノ誠心ヨリ發シタル者ニモアラヌ其原因タル
ヤ以上二者ニ比スレハ更ニ其勢力廣大ニシテ

他ノ諸原因ハ盡ク之カ枝葉タルノミ然ラハ則
チ其原因ハ果メ何者ナランヤ曰ク他ニ非ス乃
チ新生ノ一カニシテ思想ノ自由ヲ得ントスル
ノ大努力是ナリ是時ニ至ルマテハ闔歐洲億萬
ノ人士其心志卑屈ニシテ世ヲ繼キ年ヲ積ミテ
一般ニ思想ノ主治者法王及ヒ僧徒ヲ云フヨリ下與セル
意思言行ニ非サレハ敢テ之ヲ遵奉スヘカラサ
ル者ト思ヒ恭シク之ヲ信仰シタルノ卑屈ヲ脱
シ初メテ意思言行ノ束縛ヲ離レ自由ニ其意思
言行ノ可否ヲ推究シテ其是非ヲ判断セんとセ

シ人心ノ一大変革ナリ之レ實ニ古人夢ニモ想
ヒ及ホサ、ル新生ノ願望意思ニシテ人心ノ聰
明其自主獨立ヲ得ントスルノ大望ニ出テ僧徒
ノ專制ヲ抗拒廢絶セントスルノ叛乱ニシテ叛
乱ノ人心ニ在ル者ナリキ吾カ教門改革ノ大理
真狀ヲ查察スルノ所見ハ斯ノ如キナリ
若シ吾人一頭ニハ曾テ人心ノ政府タリシ聖會
ノ神權力ノ光景ヲ察シ一頭ニハ當時人心ノ光
景ヲ察セハ吾人ノ眼底ニ雙事アリテ對現スル
ヲ覺フヘシ

先ツ當時人心ノ光景ヲ通覽スルニ智識ヲ開キ
推究ヲ欲スルノ念ハ之ヲ先代ニ比スルニ其届
ル所甚タ高速活潑ナリキ此高速活潑ノ意思ノ
生シタル者ハ若干世代ノ中ニ儲蓄シタル種々
異様ノ事物ニ歸源セリ例之往日ヨリシテ異端
群起シ一異端滅亡スレハ又一異端興起シ若干
ノ異端相繼テ興レルノ時代若干アリ又理學推
究ノ說相繼テ起伏セルノ狀正ニ異端ノ如クナ
リシ者モ亦若干世ナリキ教門ニモセヨ理學ニ
モセヨ之ニ関セス人心ノ推考思察ノ力ハ千年

區區羅巴明史

卷之二十一

羅馬法文
明史
卷之十一
十二

タリ
今更ニ人心ノ主治者タリシ教門ノ光景ヲ察ス
ルニ其狀ハ全ク上條ノ人心ニ見ル所ノ者ト異
ニ其力ハ柔弱トナリ毫モ進歩ナシ乃チ聖會羅
馬法王朝共ニ政事上ノ權甚衰ロヘ歐洲ノ人民
ハ羅馬ノ神權政府ノ管轄ヲ去リテ帝王ノ世權
政府ニ歸シタリ其實狀既ニ是ノ如クナレバ神
權ハ尚ホ其虛名驕傲榮頭等其重要ノ外貌ニ表
出スル所ノ者ハ之ヲ保守シテ失ナハサリキ
永世固定シタル諸政府ニ頻發スル所ノ一事均

シク又教門政府ニ發現セリ乃チ當時ノ人民カ
教門政府ニ向テ其暴虐ヲ數ヘテ之ヲ非難シタ
ル箇條ハ多クハ無根ノ難題ナリ夫ノ千五百年
代ノ羅馬法王朝ノ暴虐甚シト云フモ實ニ非ス
又前代ニ比シテ其暴虐ノ増加セルヲ唱ヘタル
モ真ニ非ス當時ノ法王朝ノ暴虐不道ハ前代ニ
増加セサルノミナラス却ツテ只法王朝ニ困難
ヲ被ラシメス從來茲朝ニ操持シ来リタル權利ヲサヘ
許允サレ又其實行ノ如何ニハ関セス從來ノ如
ク安全ニ茲朝ノ存在スルヲ得又從來ノ如ク

皇朝通志
卷之十一
明史

貢賦ヲ納ル、等ノ事ヲ妨害サレサレハ何事ニ
ヨラス其施行ヲ恣マ、ニセシム取テ之ヲ抑壓セ
ンコトヲ努力セナリシ等ニ於テ法王朝ノ寛裕忍
耐當時ノ如クナリシ者ハホ々嘗テ往日ニ見聞
セサル所ナリ故ニ若シ人心ヲシテ法王朝ヲ背
叛スルモ温和ニシテ劇烈ナラサルコト當時ノ法王朝
ノ如クナラシメシナラハ法王朝ハ悦ンテ人心ノ趣
ク所ニ任セ取テ之ヲ羈束センコトヲ要セサリシ
ナラン然ルニ古今ヲ通覽スルニ何政府ヲ論セ
ス其勢力初メテ弱カラントシ其舉事漸ク無害

ナル時限ハ多ク激烈ノ攻撃ヲ被ワル者ナリ故
ニ政府ハ猶ホ獅虎ノ如シ其勢力旺盛ナルヤ敢
テ之ニ犯觸スル者ナキモ疾病一度之ヲ中ニ害
シ氣力疲憊スルニ及ンテハタトヒ其身ニ暴行
ナキモ忽チ四方ノ攻撃ヲ免カレント欲スルモ
決シテ能ハスハ人ノ力ニ非ズ
是故ニ獨リ之ヲ當時人心ノ光景ト當時人心ノ
政府タリシ神權ノ光景トヲ查察スルノミニ
テ既ニ教門改革ナルモノハ人心ノ其自由ヲ得
ント濺發セル事業ニシテ聰明ノ一大叛乱タル

一 明亮ナリ是レ實ニ教門改革ノ因テ起リタル
原因ノ精神ナリ世人ノ論辨スル所ノ原因ノ如
キハ盡ク此中ニ包藏セル者ニシテ特ニ其一部
分タルニ過キス此原因タルヤ君主人民ノ利益
ノ比ニ非ス世人ノ通称スル教門改革ノ意義ヨ
リモ廣ク當時ノ無道ニ不平ヲ懷キ其無道ノ諸
物ヲ除去セルノ諸事業ニ比シテ其原因更ニ重
要ナル者ナリ
今假リニ教門改革既ニ發シ改革党ハ其希望ス
ル所ノ箇條ヲ數ヘ枉害ヲ被フリタル箇條ヲ論

シタル時ニ當リ教門政府ニテ悉皆其所論ヲ許
允シ然ラハ吾レ將ニ卿等カ望ニ任セ其非理無
道ノ事ハ總テ之ヲ改正シ万事正法ニ隨ヒ純粹
無雜ノ教法ヲ復立シ且ツ故ナク金貨ヲ徵收ス
ルカ如キノ事ヲ再ヒセス加之教義ト雖ル改革
スル所アリテ百事盡ク基督教信仰ノ本源ニ遡
リ毫モ之ニ出入スル所ナカラシメン但シ是ノ
如ク卿等ノ所願ハ數ヲ盡シテ改正スヘシ故ニ
吾ハ舊ニ因テ從來ノ位置ヲ固占シ因襲シ来リ
タル諸權利諸權カヲ保有シテ以テ尚ホ人心ノ

邑法國法共ニ君主ノ專制ニ屬セリト雖モ教門
改革ノ力ニ因リテ心智思想大ニ解發シ萬事ヲ
視察スルヤ都テ自由ニ己カ聰明ヲ用ヰタリ又
君民同治ノ政法ヲ建テタル英國合衆政法ヲ設
ケタル和蘭モ共ニ古來教門ノ暴虐永ク其苛酷
ヲ極メタル國々ナレモ亦教門改革ノ力ニ因リ
テ心智解發シ思想自由ヲ得タリ我國 佛國ヲニ
テハ教門改革党全敗シテ其望ヲ遂ル能ハス其
形勢固ヨリ教門改革ノ為メニ感動サル、最モ
僅々ナルヘキカ如シト雖モ我國ノ心志ノ獨立

思想ノ自由ヲ得タルノ基礎タル者ハ實ニ教門
改革ノ力ニ因レリ千六百八十五年「フ」ンテスレ盟會
地ノ發令ノ廢止マテハ教門改革ハ佛國ニ實
在シタリ故ニ當時ヨリ千六百八十五年ニ至ル
マテ百餘年ノ間改革党ハ羅馬教党ト其是非ヲ
論シ之ヲ書記ンテ論駁シ以テ羅馬教党ヲシテ
弁辨セシメタリ斯ク新舊ニ説ヲ持スルニ党間
ニ相論駁シタルノ一事ノミニシテ既ニ自由思
想ノ外發内藏スル者並テ増加セルノ度ニ至ツ
テハ遠ク世人ノ通論ニ超越セリ當時佛民ノ心

之ニ関セス其成功ノ重大永久ナル點ニ於テ之ヲ察スレハ其究極スル所遂ニ心志思想ニ活潑自由ノ進歩ヲ與ヘタルノ廣大無邊ナルヲ見ン是レ實ニ人心ノ束縛ヲ脱シ自由ヲ得テ人智ノ解發ニ大進歩ヲ致セル者ナリ更ニ一層深ク之ヲ推究スルニ思想ノ自由ハ教門改革ノ歸着點タルノミナラス改革党ノ念願モ亦之ヲ以テ自カラ満足セリ是ヲ以テ思想ノ自由ヲ得タル處ニテハ敢テ他事ヲ希望スルモノナカリキ蓋シ是レ實ニ教門改革ノ根源ニシテ其本質全ク此

羅馬聖會ノ時ト相伯仲
或事
由ノ類
ニ於テハ熱腸烈肝ヲ以テ從事セ

處ニ在レハナリ是ヲ以テ日耳曼ニテハ改革ヲ以テ心志ノ自由ヲ得タルニ満足シテ政事上ノ自由ヲ要求スルニ意ナク奴役ト云フ程ニハアラサレ凡頗フル身軀ノ自主自由ヲ失ヒタリシモ之ヲ恢復スル事ヲ努メサリシナリ英國ニテモ亦此改革ヲ以テ心志ノ自由ヲ得タルニ満足シ僧徒ノ教法ヲ制定スルヲ許允シ一聖會ノ建設ヲ許允シ其弊害正ニ羅馬聖會ノ時ト相伯仲スヘキノミナラス其品位更ニ下ル數等ナリキ或事
由ノ類
ニ於テハ熱腸烈肝ヲ以テ從事セ

ル改革党ニシテ何カ為メニ以上諸事ニ於テハ
斯ク弛緩柔軟ナリシヤ是レ他ナシ改革党ハ既
ニ其大眼目下シテ希望セル所ノ思想ノ自由ヲ
恢復シ教權ヲ廢絶シテ其意ノ如キヲ得タレハ
ナリ吾又再言セシ教門改革既ニ此二者ヲ得タ
ル處ニテハ其政府ハ何タルモ其位置ハ何タル
モ之ニ関セス之ト相住シテ爭ハスト
今更ニ查察ノ法ヲ變シ前法ト相反シタル法ヲ
用ヰテ教門改革ノ漸漬スルヲ深カラス其初起
ニ於テ忽チ抑壓サレシ諸國ニ現ハレタル光景

ヲ講セシ吾人歴史ニ因テ是等ノ諸國ニハ思想
ノ自由ヲ得サリシコヲ知レリ例ハハ西班牙伊
太利ニ國ノ如キモノ是ナリ歐洲中教門改革ノ
漸漬深キ國々ハ三百年来思想ノ自主自由ヲ得
テ心志ノ活潑敏捷ナルヲ遠ク前代ニ超越シタ
ルモ教門改革ノ挫敗シタル國々ハ三百年来其
心志倦怠痴鈍トナリタリ斯ク同時代ニ生シタ
ル事物ノ相反スル景況モ亦以テ吾カ上條ニ講
説スル所ノ過タサルノ證左ヲ示スニ於テ相輔
翼スル者ナリ

是ニ因テ之ヲ觀レ、思想ヲ振起セルヲ、及ヒ僧徒ノ專權ヲ廢滅シタル事、ノ二事ハ以テ教門改革之本質ニシテ亦之ニ因テ生セル成績最著大ナル者タルヲ決スヘク又其命運上ノ重事タルヲ斷スヘキナリ

吾カ教門改革ヲ講説スルニ事蹟ト云ヒ事物ト云ヒ事ノ字ヲ用フル者ハ意アツテ之ヲ用井タルナリ偶然之ヲ使用セル者ニアラス夫レ教門改革中ニ思想ノ自由ヲ得タル者ハ之ヲ道理ト云ヒ企望ト云ハシヨリハ寧口之ヲ實事ト稱シ

成績ト稱スヘキ者ナレハナリ吾カ意ヲ以テ之ヲ論スレハ教門改革ノ成績ハ改革党初メニ企テテタル者ニ勝リ加之尚其願望シタル所ニ廻出シタリトス凡ソ人事ハ其計較ヲ全成スル能ハサルヲ常トス然ルニ獨リ教門改革ノ背叛ノ成果ハ^{ハカ}其計較ニ超越シタリ其成績上ヨリ考フレハ之ヲ一個預謀ニ成ルノ一法トナスヘキ者ヨリモ過大ナルヲ以テ當時ノ人此事蹟ノ能力ノ量ヲ知悉スルモノ絶テナカリシ若シ之ヲ知悉シタル者アルモ之ヲ明説シ盡シタル者

ニ至ツテハ未タ曾テアラサルナリ
保舊教者ノ常ニ教門改革ヲ非難スル處ノ語ハ
如何シ又改革党ノ答辯ニ苦ム所ノ者ハ如何シ
改革ヲ誹謗スルノ大項ニアリ其一ハ宗派多門
ニ分レタル事、思想渺漠トシテ定限ナキ事、神權
ヲ破滅シ盡シタル事、教會ヲ解散シ盡シタル事、
ヲ論シ其二ハ苛法虐殺ヲ難スルニアリ、今改革
党ヲ罪スル常語ヲ擧ケテ示サン其語ニ曰ク汝
等自カラ放縱不埒ノ事ヲ引出シテ之ヲ世間ニ
生セシメナカラ自カラ其身ヲ責メス却ツテ他

人ノ放縱不埒ナル者ヲ抑制壓伏セント欲ス何
ソ能ク之ヲ制伏シ得可ンヤ汝等刻薄兇暴ヲ以
テ自カラ異端ヲ罪セント努力スト雖凡能ク自
反セヨ豈是ヲ正道大義ノ權勢ト称スヘキヤ否
ト
嘗試ニ教門改革ヲ攻撃スル諸罪案ノ重大ナル
者ヲ閱歷スルニ真個教義上ノ論辨ヲ除カハ上
ニ示シタル二個條ノ外ニ出テス
是ノ罪案ハ實ニ改革党ヲシテ甚タ其答辯ニ窮
セシメタリキ其宗派ノ分離シテ多門トナリタ

ルヲ難セラレタル片ニ改革党ハ之ニ答フルニ
教門ノ説ハ其自由ニ任セ其信スル所ヲ奉セシ
ムヘク信教ノ權利ハ全ク各派ニ属スヘキヲ辨
明スルナク却ツテ宗派ノ分離ヲ憂ヒテ分離者
ヲ罪セント欲シ仇人ノ非難ニ別ニ議論ヲ擇
ンテ之ニ答ヘントセリ其分宗者ヲ虐殺セルニ
非難ヲ受ケタル片ハ其答辨ニ窮シ僅カニ遁辭
ヲ設ケ改革党ハ直理ヲ有テリ故ニ過誤者ヲ壓
伏スルノ權利ヲ有テリ然リ而メ彼ノ羅馬教會
ノ改革党ヲ罰スルノ權利ナキ者ハ法王朝ハ枉

邪ニシテ改革党ハ正直ナレハナリト答ヘタリ
異端虐殺ノ無道タルヲ以テ改革中ノ本宗党ヲ
非難シタルハ當ニ其仇敵タル舊教党ノミナラ
ス尚ホ新教中ノ分離者モ之ヲ非難シ分離者ノ
本宗党ノ譴罰ヲ受クルアレハ分離者ハ輒チ之
ニ答ヘテ吾等毫毛モ罪ヲ受クハキノ理ナシ吾
等カ為ス所ハ正ニ卿等カ為セシ所ノ者ナリ吾
等カ今卿等ト分離スルハ正ニ卿等カ羅馬法王
朝ト分理シタルト其理ニ於テ一点ノ違ヒナン
ト辨論サルハ至リテハ本宗ノ改革党愈其答

歐羅巴文明史
卷之十一

辞ニ窮シ唯嚴刑重罰ヲ以テ屢之ニ報答シタル
ノミナリキ
斯ク改革党ノ困難セル原曰ヲ尋ヌルニ千五百
年代ノ教門改革党ハ偏ヘニ僧徒中ニ專制ノ種
ヲ廢絶セント努力セシト雖モ却ツテ改革ノ本
性ハ專制僧徒ヲ顛覆スルニ非スシテ特ニ思想
ノ自由ヲ得ルニ在ルヲ自知セサルニ因レルナ
リ教門改革既ニ自カラ思想ノ自由ヲ得ナカラ
尚ホ法則ヲ以テ他人ノ思想ヲ管理セント要シ
タルハ豈惑ヘルノ甚キ者ニアラスヤ教門改革

ハ實事上ニ於テハ教義ノ自由查察ヲシテ流行
セシメ道義上ニ於テハ自カラ正權ヲ以テ不正
ノ權ニ換ヘタルヲ信シタリ然リ而メ自カラ其
初心ノ何物ヨリ出テ、其結局ハ何物トナルハ
キヤニ思ヒ及ホサ、リキ是ヲ以テ終ニ二個ノ
過誤ヲ生シタリ第一ノ過誤ハ人心思想ノ權利
ヲ知悉セスタトヒ之ヲ知悉セルモ之ヲ保重セ
ス自己ノ為メニハ思想ノ權利ヲ要求シナカラ
他人ノ思想ニハ權利ヲ與ハサラント欲シタル
ニ在リ第二ノ過誤ハ道理上ニ於テ權勢ノ權利

ノ及フヘキ程度ヲ測量スル能ハサルニ在リ吾
カ爰ニ説キタル權勢ハ強迫ヲ用フルノ權ニア
ラス強迫ヲ用フル權勢ハ心思上ニ權利ヲ得ヘ
キ者ニアラス故ニ唯道德學上ノ權勢ニシテ單
ニ心思上ニ感動ヲ引起スニ因テ其權勢ヲ得ヘ
キノ權勢ヲ謂フナリ卿等幸ニ誤ルナカレ教門
改革ノ行ハレタル諸國多クハ聰明ヲ以テ結合
スル人民ヲ組織スルノ良法ヲ成全スル能ハス
又論説ノ古来ヨリ傳ハリ一般ニ取用スル者ヲ
善用スルノ高見ヲ久キ古来舊教ノ信仰中ニ於

テ當時必要適切ナル者ヲ取用シテ思想ノ自由
ニ必要適切ナル者ト調理和洽ナラシムル能ハ
サリキ是レ他ナシ教門改革ハ自カラ其本性ノ
在ル所及ヒ其成績ノ及フ所ヲ明解スル能ハス
シテ其之ヲ受領スルノ方法ヲ誤マレルニ因リ
テ然ルヲ致セルナリ
是ヲ以テ教門改革党ハ其心思狹隘ニシテ不定
ナルノ状アリ以テ仇敵タル羅馬教徒ノ利スル
所トナリタリ羅馬教徒ハ自己ノ位置形勢ヲ知
悉シ又其宜ク要求スヘキ事物ヲ知悉スルヲ以

ラ其所行ハ盡ク道義ノ據ル所アリ又其歸着ス
ル所ヲモ明説シタリ世間凡百ノ政府未ダ曾テ
羅馬法王朝ノ如ク制法律令ノ固確ナリシモノ
ハアラサルナリ之ヲ事業上ニ見ルニ羅馬法王
朝ハ合意戮力禮讓等ノ事ニ於テ改革党ニ超越
シ又之ヲ理義上ニ見ルニ其制法律令ヲ遵奉シ其
行状律身ノ確定セル等遠ク改革党ニ卓出セリ
羅馬法王党ハ人類ノ意見行為本性ヲ明辨シ道
義立心ノ道理ヲ熟知シ又之ヲ取用スルノ正法
ヲモ知悉セルヲ以テ能ク廣大ノ勢力ヲ得タリ

キ其之ヲ證スヘキ的例ハ千五百年代ノ教門改
革中ニ於テ看ルヘキナリ各人ノ知レルカ如ク
羅馬舊教党ニ於テ改革党ニ敵セシメント創制
セル一宗派ハ彼ノ「イエス」派ナリキ卿等須
ク「シユス」史ヲ閱スヘシ「シユス」派ハ到
ル所ニ失錯シ「シユス」派ノ國事ニ関シタル
地方ハ盡ク不幸災禍ヲ受ケタリ例之英國諸王
ハ「シユス」派ノ為メニ覆亡ノ禍ヲ受ケ西班
牙ニテハ舉國ノ人民盡ク之カ為メニ災害ヲ被
フリタリ其然ル所以ノモノハ元來羅馬舊教党

ハ天下ノ大勢ニ抗シ文化ノ進歩ヲ沮ミ人心ノ自由ヲ妨ケンカ為メニ此「ジエス」ト派ヲ編制シタルモ其根本微弱ニシテ之ヲ防禦スルニ足ラサルヲ以テ遂ニ「ジエス」ト派ノ敗衄ヲ致シタリキ其敗衄セシハ時勢ノ然ラシムル所ナリ卿等更ニ時勢已ヲ得スシテ「ジエス」ト派力取用セシ方法ハ何物ナランカヲ記得セサルハカラサルナリ「ジエス」ト派ノ為セシ事蹟ヲ檢スルニ大事偉業ナク衆庶ノ行動ヲ起スコトモナク唯暗深不明ノ道ヲ進行シ敢テ世人ノ感覺ヲ起

サス又衆庶億兆ノ利益ヲ計ル如キ事ヲ為サス蓋シ衆庶億兆ノ利益ヲ圖ル者ハ其道義目的ハ何物ナルモ常ニ大事偉業ト相伴ナラフヲ知悉スレハナリ然ルニ「ジエス」ト派ノ敵者タル改革黨ノ為ス所ハ之ニ及シ「ジエス」ト派ヲ制伏スルヤ之ヲ青天白日衆目ノ瞻ル所ニ於テシ大器ヲ以テ大事ヲ成シ歐洲闔國ニ大人碩士ヲ頒布シ明々地ニ邦國ノ性質形体ヲ変革シタリ之ヲ概言スレハ命運外状ノ萬事成ク「ジエス」ト派ト相反シタリ是ヲ以テ成功ヲ欲スルノ道義

光采ヲ要スルノ意志等ハ共ニ「ジエス」ト派ノ
區域ヲ離レ去レリ然レモ其實ヲ按スルニ「ジエ
ス」ト派ハ其有ツ所巍々高大ニシテ其名聲事
跡及ヒ其歴史等ハ人ノ注意スル所タリ其然ル
所以ンハ「ジエス」ト派ハ其為セル所ハ何物ナ
ルヤ又其將サニ為サントスル所ノ目的ハ何處ニ
在ルヤヲ知り隨ツテ其行為スル所以ンノ理ハ
何處ニ在リ又其將サニ得ント注目スル所ノ標
準ヲ預知セルヲ以テナリ斯ク「ジエス」ト派ノ
事業ハ萬事失錯シタルモ無益不可成ノ事業ヲ

起シタルト世間ノ為ニ嗤笑サレサルモノハ其
意見企望ノ巍々然ト高クシテ曾テ其處置ニ窮
スル等ノ事ナキヲ以テナリ然ルニ若シ之ト反
シテ凡ソ其事業當初ノ計較ヨリモ過大トナリ
又其行事ノ元理成果ヲモ知ラサルモノハ必ス
其事業上ニ欠乏不定ト智慮狹隘トヲ免カレス
是ヲ以テ勝者ヲシテ其實ハ敗者ニ及ハサルヲ
致セシム是レ事變ノ中ニ頻發スル所ノ者ニシ
テ正ニ教門改革中新古兩党ニ於テ改革党ノ短
所ニシテ屢々之ヲ為ニ困難ヲ被リ其權利ヲ有

シナカラ敵者ノ論難ヲ辨明排撃スル能ハサリ
シテノ者ナリ
千五百年代ノ教門改革ニ關係シテ論スヘキ者
尚ホ若干條ヲ餘セリ然レモ是等ハ都テ教法教
義ニ關シ又明史ノ關涉スル所ニ非ス故ニ之ヲ
講セサルナリ蓋シ專ラ教門ニ關スル所ハ人ノ
靈魂ト上帝トノ關涉及ヒ未來永遠ノコトヲ論ス
ル者ナレハナリ然リト雖モ教法教義等ノ世事
ニ關係アリテ各地ニ生シタル重要ノ事件ヲ取
ツテ之ヲ下ニ講説セントス其世事ニ關スル數

事ヲ示サンニ教門改革ハ教門ヲ世間ニ導キ明
々地ニ世間俗人信者ノ前ニ齎シ来リタリ是ヨ
リ先キ教門ハ僧徒ノ專領スル所ノ者ト一定シ
僧徒ハ其碎片ヲ取テ世間ノ信者ニ撒布シタレ
モ其根本ニ至リテハ固執シテ之ヲ俗間ニ移サ
ス剩サハ教事ヲ談スル者モ亦殆ント僧徒ノ特
權ニ歸シタリ然ルニ教門改革ハ教門信仰ノ事
物ヲシテ再ヒ之ヲ世間一般ニ流布シ又是迄入
觀ヲ禁セラレタリシ教門ノ門扇ヲ開キ其縱觀
ヲ恣ニセシメタリ教門改革ノ事業茲ニ止マラ

ス教門ノ國政ニ関涉スルヲ禁シ、俗權ヲシテ
其自由ヲ保存セシメタリ、是ニ於テ教門ノ事物
ハ再ヒ凡テ信者ノ掌中ニ恢復シ、教事ハ俗權政
府ノ手ヲ放レタリ、教門改革其功ヲ奏セシ國ニ
於テハ寺法ノ殊異ニ関セス都テ神權ニ託シテ
以テ國政ヲ執ラントスルカ如キノ弊害ヲ一洗
シタリ例ハ英國ヲ見ヨ英國ハ教門改革ノ後
ト雖モ其寺法ニ至ツテハ尚ホ古法ト異ナル者
甚タ少ナルノ國ナリ然レモ神權ヲ以テ國權ヲ
握ラントスルカ如キ事ハ既ニ離脱シテ跡ナシ

教門改革ノ効力ニ関シテ此他尚ホ若干ノ記載
スヘキ者アリ然レモ上條既ニ人心ノ束縛ヲ脱
シテ自主自由ヲ得、教徒ノ專權ヲ廢滅シタルヲ
講シタリ、此二事ハ實ニ其諸効驗中ノ頭腦ナル
ヲ以テ教門改革ノ查察ヲ此處ニ卒リ其他ノ查
察ハ盡ク之ヲ遺漏スルモ吾心ニ憾ミナキナリ
教徒ノ專權ヲ廢絶シタルト一言ニ言盡シタル
モ悉皆其專權ヲ廢絶シタルニアラス尚僅カニ
其餘波ノ存スルナキニシモ非スト雖モ其功業
ノ特偉ナル往古ヨリ今時ニ至ルマテ未タ曾テ

此ノ如ク其目的ヲ果シタル者ハアヲサルナリ
本編ノ講説ヲ卒ラントスルニ先タツテ卿等ノ
着目ヲ要スハキノ一事アリ其ハ歐洲近古史ヲ
見ルニ世事ノ叛乱教事ノ叛乱ノ經歷シタル跡
ヲ視察スルニ其命運ノ相近似スル所極メテ著
明ナルニアリ
前編聖會ノ條下ニ講説シタルカ如ク耶蘇教會
ハ其初メ唯信教者ノ相聚合シテ同意志ヲ以テ
同教門ヲ奉シ時宜ニ隨カヒ唯倫理等ノ諸力ニ
因リテ構成セルノ一社會ニシテ制度モナク政

府モナク全ク自由人民ノ集合セル會社ニシテ
毫モ束縛サル、所ナカリキ、又歐洲ノ邦國ヲ為
スノ状モ亦是ノ如ク其大本ハ蠻民ニ歸セリ此
一社會ヲ創造スル人民モ亦自主獨立ヲ好ムノ
野民ニシテ國法ヲ立テ、之カ為ニ抑制サルハ
一ヲ欲セサリキ、斯ク自由氣儘ノ信教社會モ尚
ホ能ク僅少ノ人數ニハ行ナフヘキモ之ヲ大衆
ノ社會ニ行フ能ハス是ヲ以テ聖會漸ク廣大ト
ナルノ時ニ至ハ已ヲ得ス一政府ヲ設立セリ此
際ニ設立セル政府ハ必ス侯權政府即チ寡人政

府ナラサルヲ得ス而メ其主治者タル者ハ僧徒
監司ビシヨツ教長ノ如キ其中ニ德義秀逸ノ者タリ又俗
社會漸ク野風蛮俗ヲ去リタル時ニハ同シク一
政府ヲ立テ其政府ハ侯權政体ニシテ其主治者
ハ豪強富實ノ者タリ自由自由又教門ノ社會純粹ノ王權政体ヲ取用セントシ
テ侯權政体ヲ棄了シタリ是ヲ以テ羅馬法王朝
ハ歐洲教門ノ侯權政体タル教長會ヲ抑制スル
コトヲ得タリ俗間ニモ亦同變動ヲ生シ侯權政ヲ
毀壞シテ王權政專ヲ行ハレ歐洲俗間ノ政權ハ

盡ク王權ニ屬シタリ然ルニ千五百年代ニ於テ
純乎タル教門ノ王權政体ニ背キタル背叛ハ信
者ノ徒中ニ生シ僧徒ノ專制ヲ廢除セント努力
シ此叛乱ノ為ニ歐洲ニテハ教門查察ノ自由
ヲ生シ遂ニ一般ニ之ヲ許可シ一定ノ法トナル
ニ至レリ然ルニ吾人親シク俗間ニモ亦同變動
ヲ生シ專制君主ハ攻撃ヲ被フリ遂ニ專制ノ特
權ヲ失フタルヲ目撃シタリキ是ニ因テ之ヲ觀
レハ教門俗間ノニ社會ハ共同改革同叛乱ヲ
經歷シタルヲ知ルハキナリ但シ教門ハ常ニ俗

區羅巴文明史

卷之十二

間ノ先鞭ヲ著シタルヲ以テ異ナリトスルノミ
吾人既ニ迎古社會ノ大事ノ一タル教門查察ノ
自由ト思想ノ自由トヲ知得シ、兼テ各國ノ政權
ノ中央ニ歸集スルヲ記得セリ、次編將ニ講説セ
ントスル所ハ英國叛乱ニ在リ英國叛乱ノ事々
ルヤ文化進歩ノニ成果タル教門查察ノ自由ト
純乎タル王權政体ト初メテ相衝撞軋轢シタル
者トリ

本編講説スル所ノ事物ハ極メテ重大肝要ニ
シテ且ツ多年間歐洲政事上ノ大事ト綜錯セ

ルヲ以テタトヒ學者其光景ヲ熟知スル者ト
雖凡少年諸生ノ學ヒ得タル所ニテハ尚ホ不
足ナラン故ニ更ラニ精切適當ナル當時ノ歴
史ヲ附記ヒサレハ「ギゾ」君盡力筆授スル所
ノ主旨ヲ得ルニ難カラン然レ凡學者ヲシテ
「ギゾ」君ノ高論ヲ嘆服セシムハキノ事實ヲ
記入スヘキノ餘地ナシ故ニ學者ノ為メニ計
レハ注意潜心シテ當時ノ良史ヲ學フニ若カ
ス教門改革ノ骨子ヲ知リ又其輕重ヲ權リ君
意見ヲ了解セント欲スルニ於テ他ニ良法ナ

次羅巴文明史 卷之十二

歐羅巴文明史

卷之十一

カラン依テ左ニ其書名ヲ掲ケ示サン即「ロバ
 ルトソン」氏ノ「チャートル」氏「五世記」
 「コック」氏ノ「英國史」
 「スコ」氏ノ「十世史」
 「ホル子」氏ノ「羅馬法王史」
 「ト」氏ノ「教門改革史」
 「ラン」氏ノ「羅馬法王史」
 「ト」氏ノ「教門改革史」
 「ジ」氏ノ「五十四
 章等」ナリ、又英國ノ「教門改革」ニハ「ブ
 ラン」氏「英國教門改革史」
 「ヒュー」氏及「リ
 ンガ」氏ノ「教門改革ノ部」及「ヒ
 ヲ」氏ノ「教門改革」
 「リ」氏ノ「教門改革」
 「エ」氏ノ「教門改革」
 「三」氏ノ「英史等」是ナリ、
 本編ノ註解トシテ左ニ二三箇條ヲ添ヘン

本編第廿九葉「英國ニテモ(中)其品位更ニ下ル數
 等ナリキ」ニ至ルマテノ議論ハ學者ノ意見次
 第ニテ其意義種々ニ解スヘキヲ以テ特ニ注
 意ソ為ニ記載セル者ナリ
 本編第十九葉「僧徒ノ專制ヲ抗拒廢絶セシト
 スルノ叛乱ニシテ叛乱ノ人心ニ在ルモノナ
 リ」トノ議論ハ些ノ輕減ヲ要スヘキ所アルニ
 似タリ教義ヲ是非スルハ人々自主自由ノ權
 利ヲ有テ他人敢テ之ヲ妨碍スヘカラサル者
 タルノ道理ハ教門改革ノ成績ノ尤モ著明ニ

歐羅巴文明史

卷之十一

國羅馬法明

卷之十二

シテ疑ヲ容レサル所ナリ然レモ教門改革ハ其初期ニ於テ其固守遵行スル道理ヲ確定シ且ツ之ヲ解明シテ自カラ終始之ヲ奉スルヲ為サ、リシハ他事大改革ノ叛乱ニ比スレハ更ラニ不定ナリキ教門改革ノ起リハ或事ノ不道弊害ヲ排除センカ為メニ起リタル者ニシテ其首長タリシリユゼル及其党與モ其行動ハ當ニ何處ニ至リテ止ハキヤヲ預算スルヲ能ハサリシナリ彼ノ教義ヲ查察スルハ各人ノ特權ナルヲ確乎不變ノ一道理ナリト

發明シ之ヲ得テ自カラ満足シタルハ改革ノ末期ニ初メテ現シタル者ナリ故ニ「リユゼル」及其他初期ノ改革党ハ教義查察ハ天理ノ自然ニ出テ取テ廢滅スヘカラサル者タルヲ主張セサリシナリ「リユゼル」カ教長大會ノ決義ニ默從シタルヲ以テ之カ證トスヘキナリ更ニ之ヲ証明スヘキ者ハ改革党モ亦羅馬法王党ノ如ク其己カ固執スル所ノ教義ヲ非難スル者アレハ之ヲ禁止シ之ニ苦痛ヲ加ヘ刺サハ之ヲ死ニ處スルヲ以テ信教者ノ正道真義ト

次羅馬法明

區羅巴效明奴

卷之十一

認ノタルニ在リ
「ロバルトソン」氏史家曰ク羅馬教徒ハ自カラ已
カ取ル所ヲ以テ真理ト認メ毫釐モ疑慮ナク
其裁決スル所ハ一点ノ不理モアラシト自信
シタリ是ヲ以テ新教徒ヲ稱シテ己カ真誠ノ
教義ヲ非トシテ上帝ヲ畏レス妄リニ浮説ヲ
唱フルノ異端トナシ之ヲ壓伏セント青天白
日公然ニカラ俗權ニ假リ「プロテスタント」即
改革党モ亦其教義ヲ真正無誤ナリト自信シ
其讎敵者ヲ防禦攻撃セント同党中ノ君主ヲ

勸メ同シク干戈ヲ起サシメタリ諸國改革ノ
開祖タル「リユゼル」カルヴン「クラムマー」
「ノツクス」等ハ其勢力ノ及フ所時情ノ至ル所
ハ敢テ遺漏スル所ナク己カ信教ヲ非駁スル
者ヲ刑罰ニ處シタルハ正ニ羅馬法王朝カ異
端ヲ罰シタル者ト相同シ
「スミト」ス氏近古史論ニ「ロバルトソン」氏ノ上
條ノ論ヲ解テ曰ク「リユゼル」ノ「カルヴン」等
ノ諸子ト並説セラレサル者ハ天幸ニ屬スリ
ユゼルノ筆記中ニ地方ノ首長ヲ懲懣シ教事

ニ関涉セシメテ自己ニ勢力ヲ増サシメント
セルノ文書若干アリ然レモ幸ニシテ終身自
カラ軍士ヲ指揮スルノ位置ニ居ラス又其身
ヲ終ルマテ糾問ヲ受タルコトナシト
目今ヲ以テ論スレハ教門信仰ノ取捨可否ハ
全ク是ヲ人々自己ノ裁判ニ屬スヘキノ權利
タリ是ノ權利タルヤ何等ノ勢力モ敢テ之ヲ
妨害スルコトヲ許サルノ論ハ一定ノ通理ト
シテ認許スル所ノ者トナレリ是ノ通理ノ果
々眞誠ノ天理ニ合スヘキヤ否ヤハ吾人ノ裁

斷スヘキ所ナラサレモ信教ハ人類ノ勢力ノ
為メニ妨害サル、ナク又人々自己ノ取捨ハ
無限ノ權利ヲ有スヘキノ理ハ萬國ノ公嘉ス
ル正理トナリ敢テ之ヲ駁議スル者ナシ若シ
自家ノ信仰セレト欲スル所ヲ信仰スルニ他
人ノ之ヲ抑遏シ若クハ之ヲ罰スル者アレハ
世人之ヲ認メテ天理ニ背クノ大罪ト做スニ
至レリ然ルニ歴史ヲ見ルニ當時教門改革党
ハ未タ茲天理ヲ理解セス故ニ茲天理ニ基キ
テ萬事ヲ處分スルコトナカリシ彼ノ新教徒

テスタントノ初メテ能ク異教異端ト雖
宗徒ヲ云フノ初メテ能ク異教異端ト雖
決シテ死罪、禁獄、罰金等ノ處刑ヲ受クヘキノ
理ナク異教異端者ハ唯其教會ヲ除キ交通ヲ
絶ツヘキノミト云フノ理ヲ明知セルハ總カ
ニ一百五十年前ノ頃ニ發明セル者ナリ
異教者ヲ死殺セル者ハ唯獨リ羅馬宗徒ノミ
ナリト云フノ說專ラ我カ國ニ行ナハルト雖
凡新教徒モ自カラ知ラン此說ノ虛ニシテ實
ナラサルヲ新教徒モ亦自保ノ策ニ出タリト
雖凡慘酷ナル條例ヲ發シテ其異教者ヲ屠戮

セルヲ少カラス此点ニ至リテ新舊ニ教徒孰
レカ善孰レカ惡ヲ決スヘカラス故ニ敢テ其
創業ノ人氏カ行フタル掩蔽スヘカラスナルノ
過失ヲ掩蔽セントシテ却ツテ改革ノ上ニ一
層ノ困難ヲ被ラシメンヨリハ寧ロ之ヲ明白
ニ告知スルノ良策タルヲ知得セヨ其初世ノ
人氏ノ行事ノ良善ナラサリシハ全ク其時代
ノ流弊ヲ除滌シ盡ス能ハサリシニ歸スルノ
過失ナリ誰カ敢テ之ヲ以テ彼ヲ罪スヘケン
ヤ教門改革ノ大本ハ是クノ如キノ小事ニ因

リテ興廢スヘキカ如キ者ニ非ス故ニ往日ノ
改革者カ其異教者ヲ殘殺シタルハ隱ス所ナ
ク明カニ之ヲ世間ニ示スモ毫毛ノ損害モ新
教徒ノ頭上ニ墮落シ来ルノ患ナケン
「カルヴン」ハ異端トシテ「セルガ」エクス
「火
殺シ温厚ニ名アルノ「メラ」クトシハ之ヲ嘉
賞シ「ブーセル」モ亦之ヲ善トセリ
「カルヴン」ヨリ英國ノ攝政タル「ソーム」セ
ット「公」ニ與フル書ニ舊教徒ノ羅馬法王ニ信
從セル者ヲ論シテ曰ク「是ノ如キ醜徒ハ宜ク

上帝ヨリ閣下ニ授付セル報讎ノ利劍ヲ以テ
殄滅スヘキナリト
英王「エドワード」六世ノ治世タル千五百五十
年ニ一婦人ハ基督ノ肉躰ナル説ヲ立テタル
カ為メニ火殺サレタリ王ハ其死罪ノ決案ニ
押置スルニ當リテ疑心ヲ懷キ猶豫セシカニ
終ニ「グラム」ノ意ニ應シテ其罪案ニ押置
セリ其後一百年新教派ノ歴史家「フル」此
事ヲ追録スルニ當リテ「此王ノ治世中ニ言論
ノ為メニ死罪ニ處セラレタル者ハ此婦人及

ヒ一ニノ「エリアン」人ノミナリキ而シテ其處
刑ハ實ニ公正不偏ノ中道ヲ得タリト記載セ
リ
英國ノ新教徒カ其異說者ヲ殘殺セルハ「ヘ
リ」^リ「フルラ」^リ「ゴリエール」^ル等ノ如キ新教徒中
ノ手書ニ成レル教門史ヲ見ハ明白ナリ教門
史ヲ見ルニ教義ノ為ニ死刑ニ處セラレタル
者ハ「ヘンリー」^八世ノ時ヲ最甚トス「エドワ
ルド」^六世ノ時ニモ亦數人アリ女王「イリザベツ
ス」ノ時ニハ百六十ノ舊教徒ヲ死刑ニ處シ「

エドムス」^一世ニハ十六人若クハ十七人ヲ殺
シ「プレスバイテリアン」徒及ビ共和黨ハ二十
人餘ヲ屠殺セリ右ノ内其言論ノ故ノミヲ以
テ或ハ火殺或ハ絞殺サレタル者アリ或ハ當
時ノ官吏カ想像上ニ時情已ヲ得サルト假定
セル虚理ヨリ發行セル酷法ノ為メニ屠戮サ
レタリキ
以上ノ諸事ヨリシテ見テ下セハ卿等當ニ自
カラ當時ノ教門改革黨カ信教ニ関シテハ人
々其取捨ヲ自由ニスヘク敢テ他人ノ之ニ関

渉スヘカヲサルノ理ヲ解スル度ノ淺深ノ如
何ニハ吾カ辨解ヲ待スシテ既ニ明亮ナラン
更ニ當時ノ歴史ニ関シテ學者ノ用心ヲ要ス
ハキノ一問題ヲ餘セリ假令人々思想ノ裁断
ハ全ク他人ノ勢力ノ束縛ヲ受スンテ獨立シ
異教者ヲ罰スル者ハ大惡大罪タルハキハ世
人一般ニ首肯スルノ通義トナリタルモ一疑
團ノ胸間ニ蟠屈スルアリ即チ人々自己ノ裁
断ヲ以テ神權ニ抵抗シ且ツ教儀等ニ於テ神
明ノ之ヲ裁定セルハ聖史ニ照々トシテ疑フ

ハキナキモ恣ニ之ヲ排棄シテ可ナランヤト
云フノ一問題ナリ此ノ問題ヲ解カンニハ第
世四葉ノ是ヲ以テ終ニ二個ノ過誤ヲ生シタ
リ以下ノ全節ヲ見ヨ
上理ハ實ニ學者ノ思慮ヲ要スル最大切ナル
ノ部分ニシテ又以テ記者ノ眼力ノ尋常ナラ
サルヲ見ルニ足ルハキ者ナリ然レモ記者モ
亦云ヘルカ如ク未タ真理ヲ發覺シ盡ス能ハ
スシテ思察ノ外ニ殘存スル者アラシ故ニ學
者黽勉之ヲ發明センコトヲ勤メスンハアルハ

Z
11

昭和 38. 年
第 2006 號
10月22日

W230
G92
1(12)

歐羅巴文明史卷之十二
終

歐羅巴文明史卷之十二終

カラズ
...

最高裁判所図書館



000128837

明治九年九月廿七日板權免許
明治十年三月二日出板



翻譯人

静岡縣士族

永峰秀樹

東京芝愛宕町三丁目壹番地住

出板人

東京府平民

稻田政吉

東京銀坐三丁目十九番及廿番地住

Vertical text on the right edge of the page, possibly bleed-through or a separate column of text.

出對人

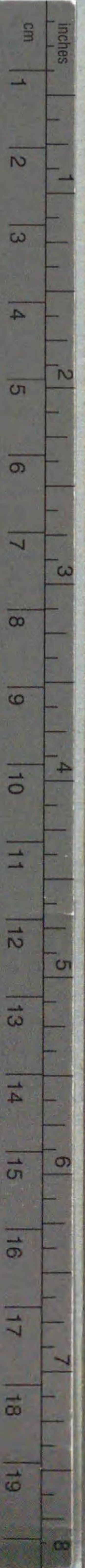
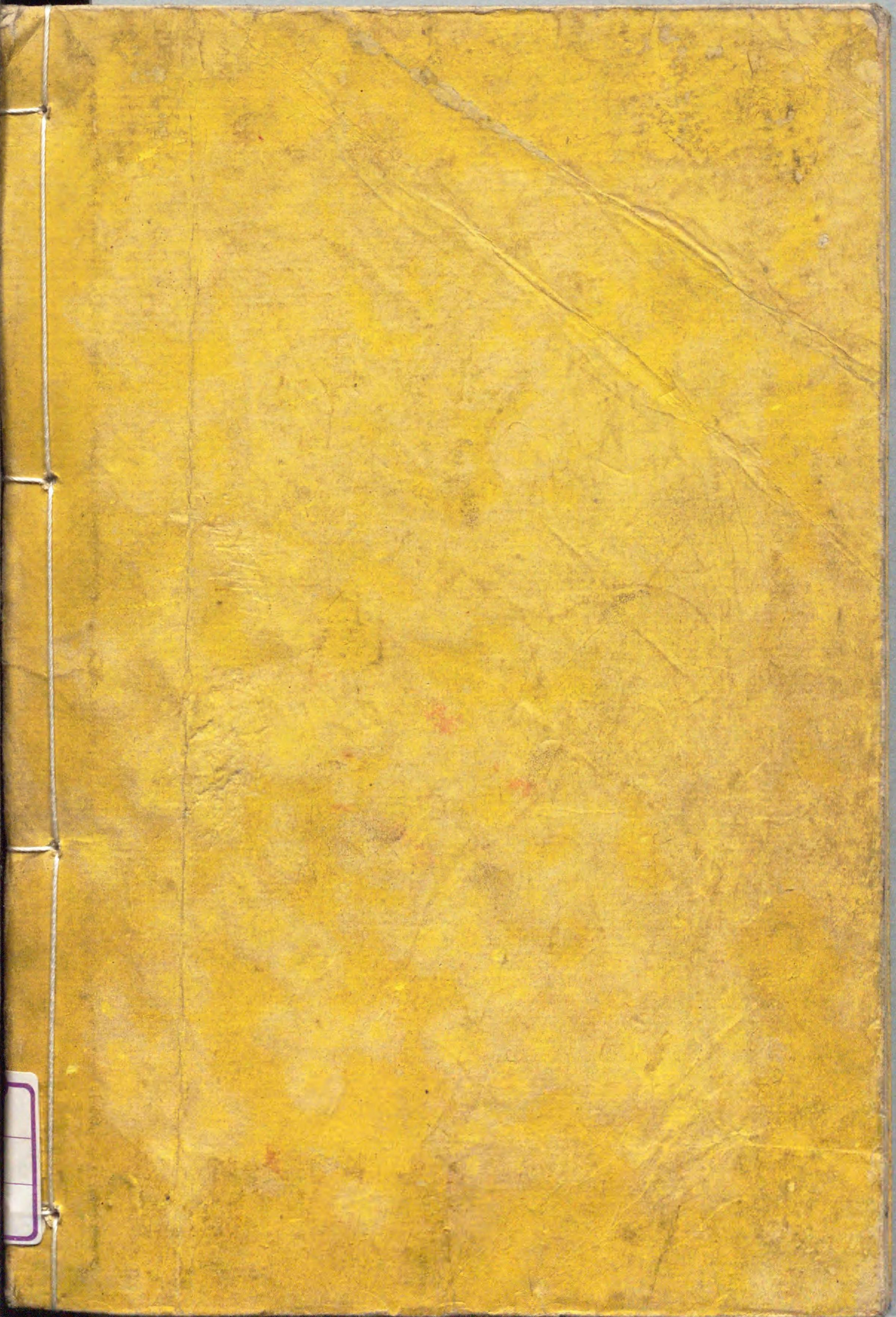
蘇田 吉

齋 署 人

精 齋 齋 人

永 和 齋 齋 人

即 命 十 年 三 月 二 日 出 對
即 命 武 軍 八 月 廿 二 日 出 對 齋 齋 齋 齋



Kodak Color Control Patches



Kodak Gray Scale



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

© Kodak, 2007 TM: Kodak

歐羅巴文明史

一三

42

